

毎月・毎年安定しない  
投資信託の運用からの卒業

月利1%をコツコツ狙う

# 非常識な 資産運用

井上隆



なぜ私は投資信託を  
おすすめしないのか



# 目次

◎はじめに

◎第1章：ほとんど語られないことがない投資信託の致命的な弱点

◎第2章：資産活用期における理想的な運用とは？

◎第3章：株でもない投資信託でもない第三の選択肢とは？

- ・ どのような金融商品なのか
- ・ 暴落保険の正体とは
- ・ 毎月入ってくる投資収入を作れる理由とは
- ・ 毎月利益が出る確率は
- ・ 年4%と年12%の大きすぎる違い
- ・ 未来が見える安心感

- ・ もう相場の予測は必要ありません
- ・ とある主婦の1か月間のオプション生活
- ・ 相場に左右されない投資手段の重要性
- ・ オプションを始めて変わったこと

◎おわりに

◎ここまでお読みいただいた皆様にお問い合わせ  
お知らせ

# はじめに



この度は数ある書籍の中から本書を選んでいただき、本当にありがとうございます。

私は、ネコと投資をこよなく愛する資産運用アドバイザーの井上隆と申します。

簡単に自己紹介させていただくと、元大手証券会社勤務/投資歴：約 20 年/資産額：ヒミツ/投資経験：100 種類以上/投資ブログ：1 日 3000 人訪問/最大損失：約 4000 万・・・といった経歴の持ち主です。

保有資格としては、FP1 級、AFP、プライマリープライベートバンカー、宅地建物取引士、競売不動産取扱主任者、MBA など、資産運用を語る上で、ベースとなる知識を身につけています。

これまでに株、FX、投資信託、不動産、先物、日経 225 オプション、CFD、債券、自動売買、仮

想通貨、Defi、クラファン、競売不動産、私募ファンド、野球グッズ、軽油卸、チャリティウォーター、リバーシブルジーンズ、海外アーティストなど、大小合わせて100以上の案件に投資をしてきました。

そして、数多くの成功と失敗を繰り返す中で、私は最終的に次の2つの結論に行き着きました。

・他人任せにして大損するくらいなら、自分の手で全部やったほうがいい。結局、最後に信じられるのは自分の判断と経験である。

・相場頼みの投資では、いくら資産が増えたとしても、心の安定は得られない。将来の利益が見通せる投資こそが真の安心感をもたらしてくれる。

投資歴が長い人であれば、この考えに共感いただけの方も多いのではないのでしょうか。

本書でご紹介するのは、そんな私が数多くの失敗と試行錯誤の末にたどり着いた、とっておきの投資手法です。

**「毎年の収益が相場頼みの投資信託ではなく、安心しながら毎月コツコツ利益を得られる投資」**

そんな選択肢を探している方にとって、本書は新しい気づきが得られる内容になっていると自負しています。

どうぞ楽しみながらお読みいただき、あなたの投資ライフに新しいヒントを見つけていただければと思います。

# ほとんど語られない 投資信託の致命的な弱点



2019年12月、私は投資信託の運用金額を大きく減らしました。

今、振り返れば、保有を続けていたほうが資産を大きく増やせましたが、実は、その何年も前から投資信託の運用金額はタイミングを見て、減らすことを考えていました。

なぜ私が投資信託の運用金額を減らそうと思ったのか。

それは、ほとんど語られることがない投資信託の弱点に気づいてしまったからです。

※決して、投資信託での運用を一切やめたわけではなく、一部の資金は引き続き運用しています。

過去の歴史を見ると、投資信託の運用は長期保有をすれば、プラスになる確率が高いですが、単年で見るとプラスの時もあれば、マイナスの時もあり、マイナスが何年か続くときもあります。

資産形成期（まだ現役でバリバリ働いていて、毎月貯蓄ができている時期）においては、長期でプラスのリターンが期待できるのであれば、マイナスの年が何年か続いても、特に問題になりません。

むしろ、毎月、積み立てることができるのであれば、相場が大きく下がったときは、絶好の買い場になりますので、チャンスとも言えます。

しかし、年金生活が始まった方や、セミリタイアした方のように、資産活用期（毎月、給料のような入金はなく、今までに積み上げてきた資

産をやりくりして暮らす時期)に入ると、状況が全く変わってきます。

例えば、過去 30 年間の平均利回りが 5%の投資信託があったとします。

あなたは 2025 年の初めに、この投資信託を 2000 万円分、購入しました。

そして、2025 年から年金生活(資産活用期)が始まり、年金の補填として、毎年 100 万円を生活費として取り崩しながら、生活するとします。

2025 年。

運用で▲10%(200 万円の評価損)が出ました。

資産活用期における10%の評価損というのは、かなり痛手ですが、「まあ翌年にはプラスが出るだろう」と思い、そこまで不安にもならず保有を続けます。

生活費として100万円を取り崩したので、2025年末の資産は2000万-200万-100万=1700万円になります。

年代	運用利回り	年末残高
2024年	-	2000万円
2025年	▲10%	1700万円

※▲はマイナス

※毎年100万円を生活費として取り崩す前提

そして2026年。

株式市場は今年も不調で、さらに▲10%(170万円の評価損)が出ました。

2026年も生活費として100万円を取り崩したので、2026年末時点の資産は、1700万-170万-100万=1430万円になります。

年代	運用利回り	年末残高
2024年	-	2000万円
2025年	▲10%	1700万円
2026年	▲10%	1430万円

※▲はマイナス

※毎年100万円を生活費として取り崩す前提

リタイア後わずか2年で、資産が4分の3以下まで減ってしまいました。

さて、あなたは2年目終了時点で、「2027年はきっとプラスになるから大丈夫！」と心穏やかに投資信託を保有し続けられるでしょうか？

この投資信託の30年間の平均利回りは5%なので、2年連続でマイナス10%であれば、ここから毎年大きなプラスで運用できる可能性はあります。

しかし、資産活用期では、今ある資産で老後の生活をやりくりしなければならぬので、大きな損失は老後生活が破綻することを意味しています。

「お金を稼ぐために日雇いのバイトを始める。」といったことをまた始めたいと思う人はいないでしょう。

そのため、長期で運用すれば年平均5%で運用できると頭ではわかっていたとしても、大きく資産が減っている状況に直面すると、正常な投資判断ができなくなってしまうのです。

「もっと下がるかもしれない・・・」「これ以上損失を抱えたらどうしよう」「いつまで経っても元の水準まで戻らないかもしれない・・・」と悲観的な考えが頭をめぐり、

最終的に「これ以上損失を膨らませられない」と我慢が限界に達し、損が出ている状態で売却してしまう人がほとんどなのです。

たいていの人には自分の感情の影響力を過小評価しています。

しかし、いくら「今は売らないほうがいい」と頭ではわかっているとしても、どうにもならないのが投資なのです。

**結局、何が問題なのかと言えば、投資信託は、相場の値動きですべてが決まる投資だということです。**

過去の歴史からは、中長期ではプラスのリターンが期待できても、来年、再来年の株式相場は、上がるか下がるか誰にも予測することはできません。

つまりは、あなたがどれだけ努力しても、来年の株式相場を意のままに動かすことはできず、唯一できることは神頼みするしかないのです。

これが投資信託の最大の弱点です。

# 資産活用期の理想的な運用 とは？



では、あなたに改めて、質問です。

資産活用期において、どのような運用が一番理想的でしょうか？

それは、毎月、毎年安定してプラスのリターンを生み出す運用です。

年代	投資信託	理想の投資
2025年	▲10%	5%
2026年	▲10%	5%
2027年	+15%	5%
2028年	▲5%	5%
2029年	+20%	5%
2030年	+20%	5%
平均	5%	5%

なぜ、このように安定したリターンが求められるのか。

それは、来年、再来年の将来が、ある程度見通せるからです。

「時給 1300 円のアルバイト」と、「時給は 1 か月後の売上によって 0 にも 2 倍にもなるアルバイト」であれば、ほぼ 100%の人が前者を選ぶのと同じです。

私たちの大半が毎月お給料をもらって生活することに慣れてしています。

この染みついた感覚があるため、最終的に増えるか増えないかまったく分からない投資よりも、毎月、毎年、安定した収益が期待できる投資が一番安心できるのです。

その点、投資信託は来年、再来年の運用パフォーマンスは相場次第なので、安心感は全く得られません。

投資信託に重きを置いた資産運用の危険性が少しイメージできたでしょうか？

投資信託を売って手数料を稼ぎたい証券会社や銀行等の金融機関はまずこのような話はしてくれません。

ですので、自分で危険性に気づき、行動を変えていくしかないのです。

そして、次章以降、資産活用期に身につけておいて損はない新しい投資の話をしていきます。

この投資は、私が実際に月 1%前後の利回りで、コツコツ利益を出している投資手法です。

株式や投資信託とは全く仕組みが異なるので、最初は少し難しく感じるかもしれませんが、その分、ライバルがなかなか入って来ません。

一度、利益の出し方を身につければ一生ものの武器になりますので、本書を読んで、ぜひご自身で取引を始めてみて下さい。

それでは早速、本題に入っていきます。

※公式 LINE で運用実績を公開しています。興味のある方は公式 LINE に登録してください。

<https://lin.ee/SDIMw2U>

**株でもない  
投資信託でもない  
第三の選択肢とは？**



株でもなく投資信託でもない第三の選択肢の正体を明かす前に、あなたはご存じでしょうか？

機関投資家と呼ばれるプロたちは“株をただ持っているだけ”では終わらせていないことを。

株を購入し、値上がりするのを待つ —これは多くの個人投資家が行っている王道の投資スタイルです。

しかし、プロの投資家たちは、その一歩も二歩も先を行く運用をしています。

彼らは、ただ株を持っているだけでなく、ある投資商品を使うことで、「株が暴落しても利益を出す」「株がほぼ動かなくても収益を得る」そんな運用を、当たり前のように実践しているのです。

そして、実はこの投資商品は、個人投資家でも取引が可能で、うまく活用すれば、「ただ株を売買する」だけでは得られない、”追加の利益”を手にすることも可能です。※ちなみにこの商品は株を保有していなくても取引できます。

では、どのような投資商品なのか、次章では、具体的な事例を交えながら、その仕組みと魅力をわかりやすく解説していきます。

どのような  
金融商品なのか？

「具体的にどんな商品なの？」と気になって、うずうずしている人も多いかもしれません。

ですが、申し訳ありません。いきなり、結論をお伝えする前に、まずこの投資商品と”似た仕組みをもつ商品”についてお話しさせてください。

なぜ、わざわざ回り道をするのか。

それは、この投資商品はあなたが慣れ親しんでいる株式や投資信託とは根本的に構造が異なるからです。

そのため、私の経験上、いきなりこの商品の説明に入ると、99%の人が内容を理解できず、取引を始める前に心が折れてしまいます。

実際、株式投資歴 10 年以上のベテラン投資家でさえ、この商品の本質を 1 日で理解することはできませんでした。

だからこそ、焦らずに、まずは「どうなれば利益が出て、どうなると損失が出るのか」というイメージを掴むことを優先してください。

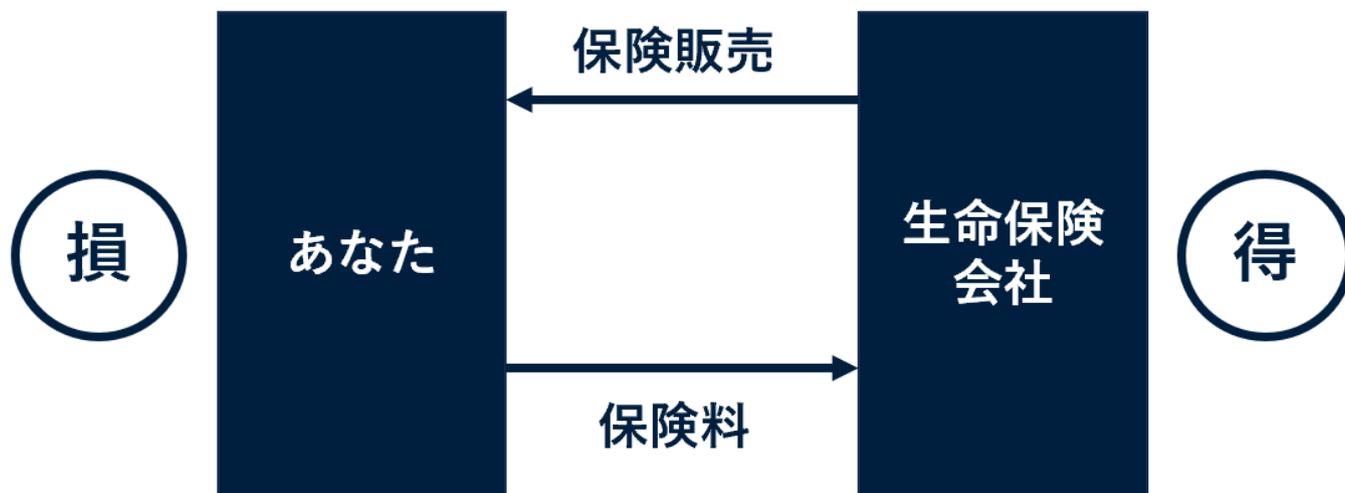
イメージしやすくなるように、できる限り専門用語は避け、不要な情報をそぎ落として構成しています。

さて、いよいよ本題に入っていきますが、この投資商品の仕組みを、身近なもので例えるなら、最も近いのは「がん保険」です。

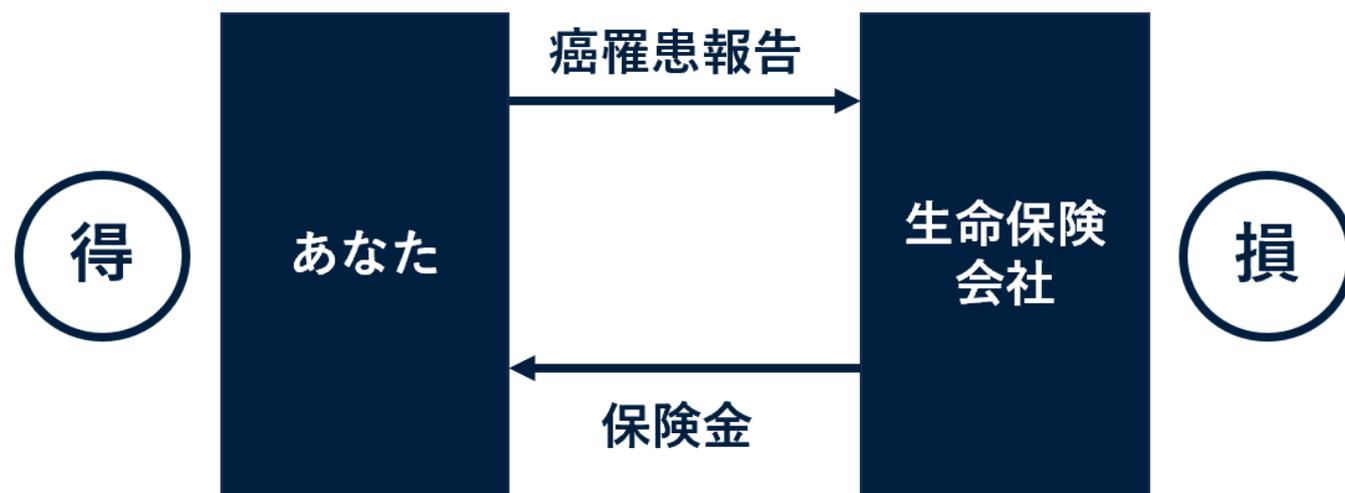
例えば、がん保険は、あなたが毎月保険料を支払うことで、がんと診断された際にまとまった保険金を受け取れる仕組みになっています。

このお金の流れを簡単に図示すると、次のようになります。

### ■通常時（がんになっていない）



### ■がん罹患時



そして、このがん保険の仕組みに似ているのが、プロ投資家が密かに活用している「暴落保険」です。

※ちなみに暴落保険は筆者の造語です。

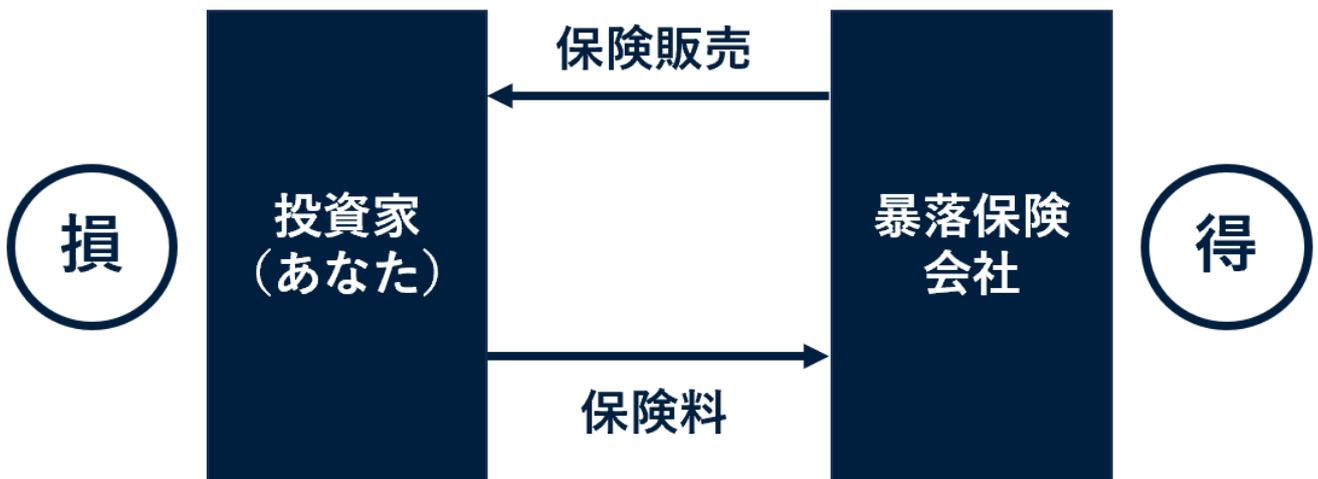
この暴落保険では、プロ投資家が保険料を支払うことで、万が一、株式相場が暴落した際にまとまった「保険金（利益）」を受け取ることができます。

つまり、保有していた株が暴落して損失を出したとしても、その損失を暴落保険の補償でカバーできるというわけです。

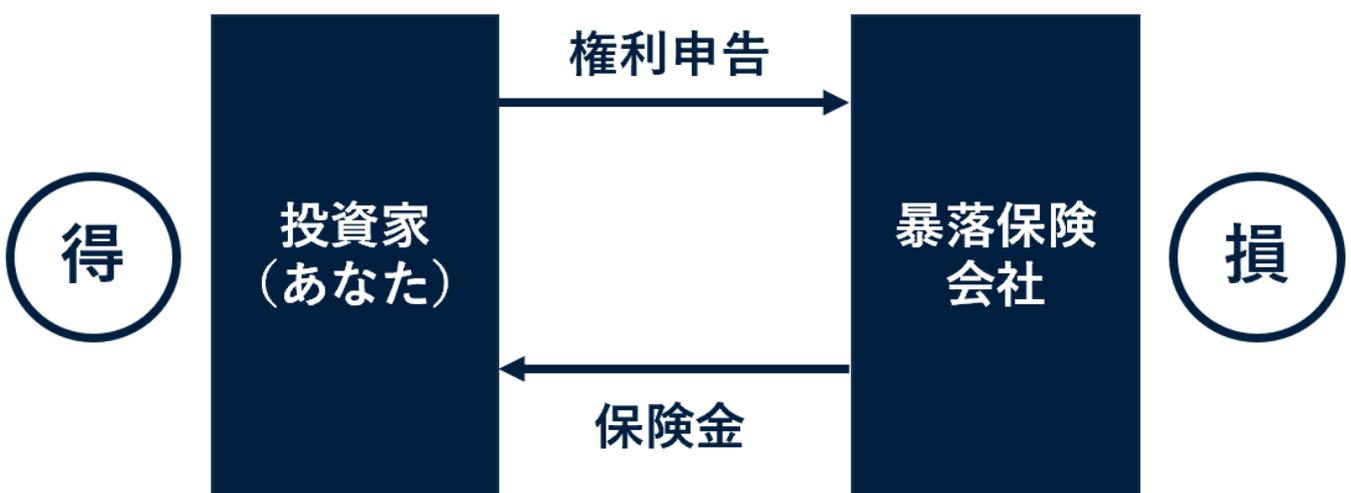
※ちなみにこの保険は株を持っていなくても購入できます。

このときのお金の流れを示すと次のようになります。

### ■相場が平穏なとき



### ■相場が暴落したとき



この時点で「株とは全く違う仕組みだ」と感じた方も多いと思いますが、まさにそのとおりです。

しかし、現実にはこのような投資商品が存在しています。

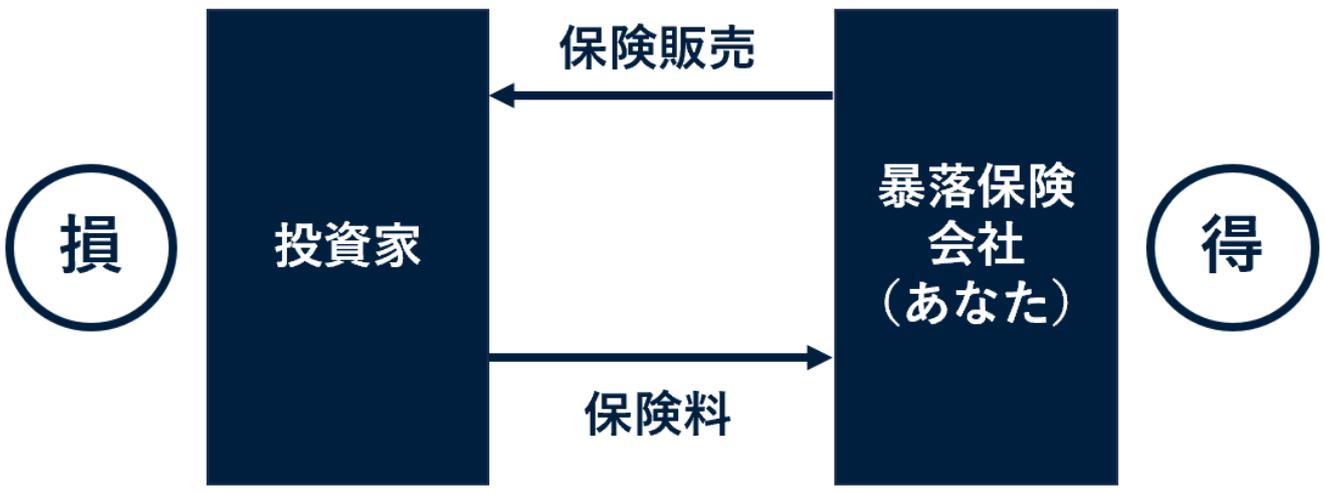
しかも、この暴落保険には、もう1つ驚くべき特徴があります。

それは、あなたが” 保険会社の立場” になって、暴落保険を投資家に販売することもできるという点です。

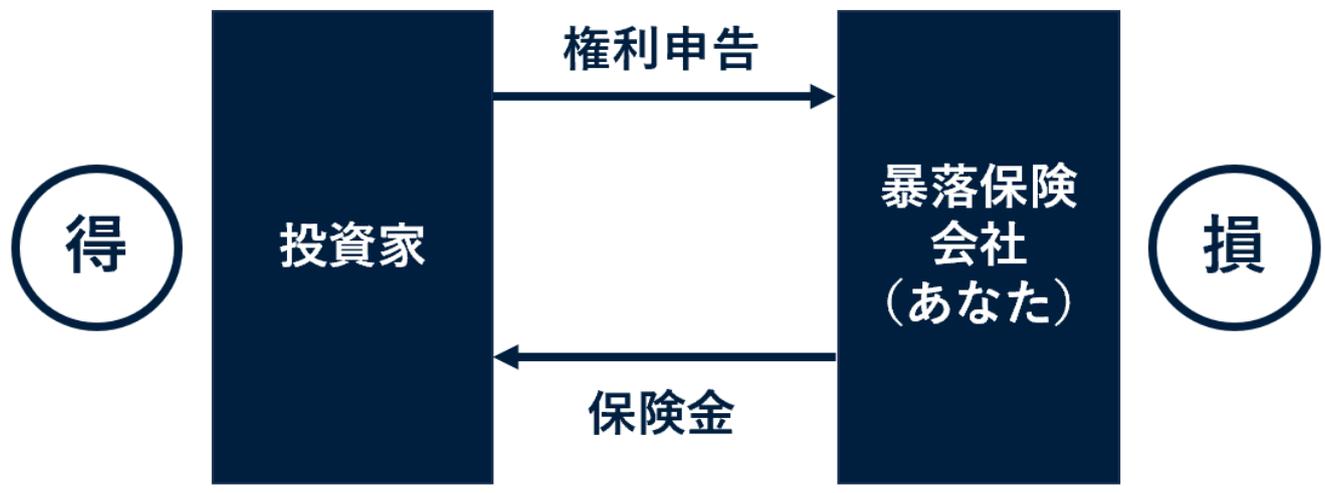
がん保険では、保険会社の立場で保険を販売することはできませんが、この暴落保険では、あなたは保険の買い手にも売り手にもなることが可能なのです。

この場合のお金の流れを示すと次のようになります。

■相場が平穏なとき



■相場が暴落したとき



そして、この「保険を買う側」と「保険を売る側」の両方を同時に行うことも可能です。

つまり、相場が穏やかだったときは、「売り手」として保険料を受け取ることで利益を出し、大暴落が起きたときは、「買い手」として保険金を受け取ることで利益を出す。

このようにどちらに相場が動いても、利益を狙える運用戦略を、プロたちは日常的に実践しているのです。

まさか「暴落保険の売買」が投資手法だったとは、予想外だったかもしれません。

ですが、これこそが、機関投資家たちが株式取引の裏側でこっそりと利益を積み上げているもう1つの顔なのです。

**暴落保険の正体とは？**

さて、この投資商品の輪郭が見えてきたところで、いよいよ暴落保険の正体を明かしましょう。

この暴落保険の正体は、、、

「オプション」

と呼ばれる金融派生商品です。

オプションにも色々な種類がありますが、機関投資家が日常的に取引しているのが「日経 225 オプション」です。

証券会社のホームページには「日経 225 オプションとは、あらかじめ定められた期日（満期日）に、あらかじめ定められた価格（権利行使価格）で日経平均を買い付ける、または売り付

ける権利を売買する取引」と説明されています。

ただ、この説明を読んでも何を言っているのかさっぱりわからないと思います。

ですので、「今はまだ理解できていなくてOK」と割り切って、気軽に読み進めてください。

ここでひとつだけ覚えておいていただきたいのは、**日経 225 オプションは、毎月第 2 金曜日が取引期限日(満期日)と決まっています、その日にすべての取引が自動的に精算される**という点です。

つまり、毎月第 2 金曜日に必ず損益が確定し、翌週から新たに次の 1 か月分のオプション取引が始まるという流れになります。

では、ここからはさらに具体的にオプション＝暴落保険の仕組みを見ていきましょう。

オプションには買いと売りがありますが、まずは、「オプションの買い」について説明します。

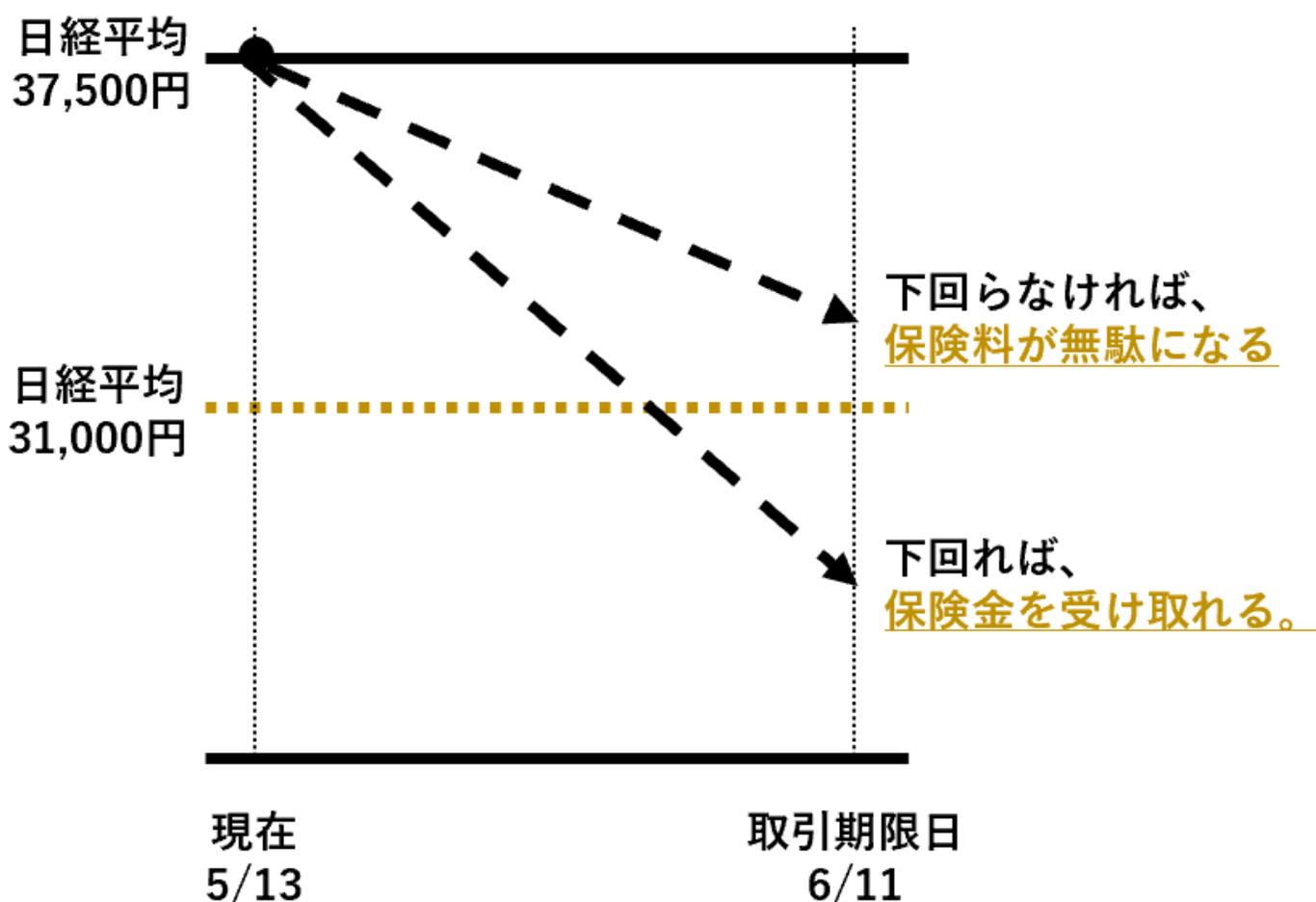
5月13日時点で日経平均株価が37500円だったとしましょう。

あなたは「1か月後の取引期限日までに、株価が急落して、31000円を下回るような大暴落が起こるかもしれない」と不安に思っていました。

その場合、「日経平均が31000円を下回ったら保険金を受け取れるオプション」を購入することで、暴落に備えることができます。

※この「日経平均が〇〇円を下回ったら」という基準となる価格のことを権利行使価格と呼びます。

暴落保険を購入したときの損益分岐点を簡単に図示すると次のようになります。横軸が取引期限日までの時間の流れを表し、縦軸が日経平均株価を表しています。

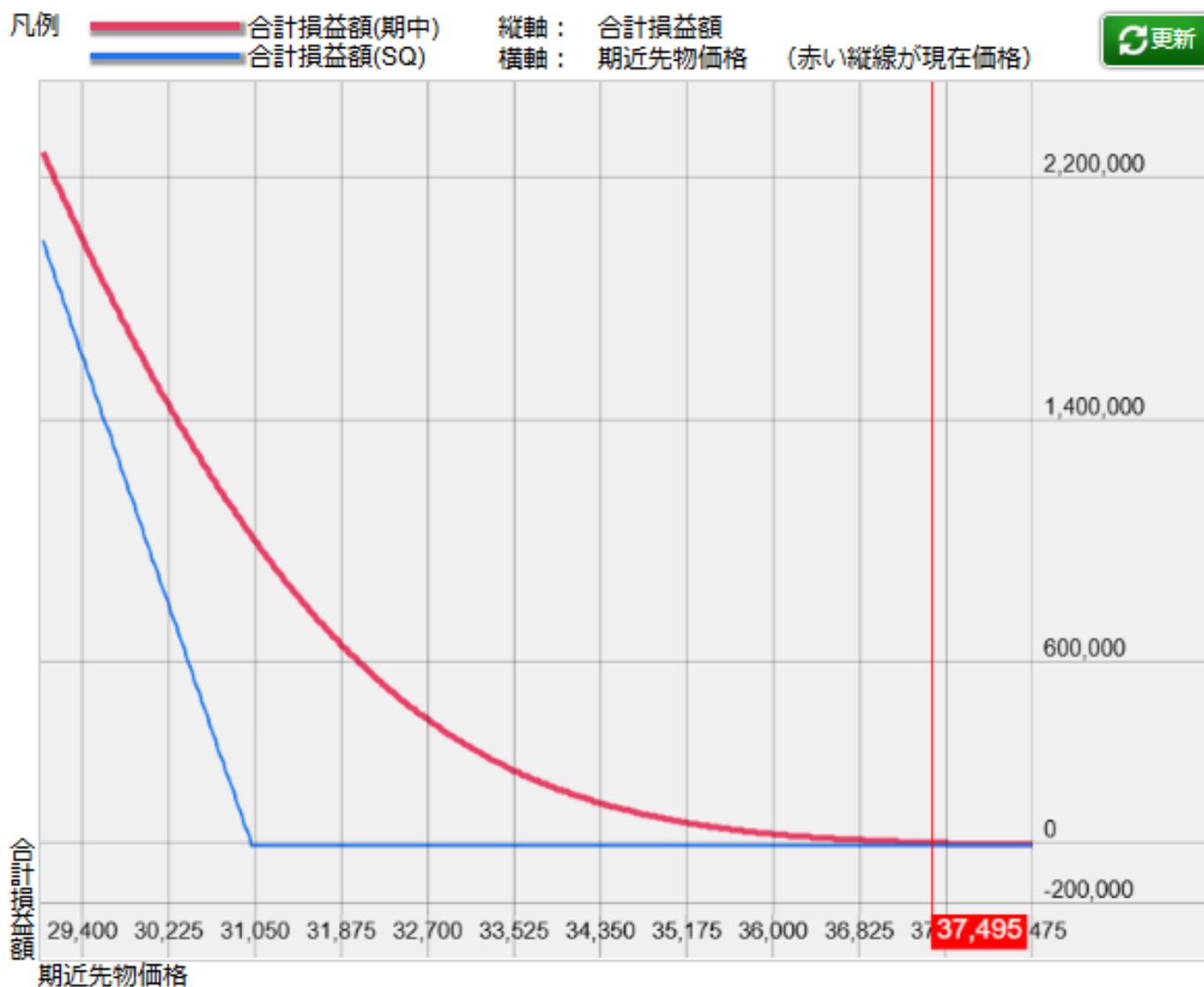


相場が大きく動かず、日経平均が 31,000 円を下回らなければ、支払った保険料は“掛け捨て”となり、支払った保険料分の損失が発生します。

一方、万が一、取引期限日に日経平均が 31,000 円を下回った場合、その下回った幅に応じて、大きな保険金（利益）を受け取ることができます。

少し見方を変えて、このオプションの損益図（青線）を見てみましょう。

これは横軸が取引期限日（満期日）における日経平均株価を表し、縦軸が損益を表しているとお考え下さい。（現在値は赤線の37,495です。）



取引期限日に日経平均が 31000 より上だった場合、損益曲線（青線）は横一線になっています。つまり、支払った保険料分だけマイナスになることを意味しています。

※このグラフだと 0 に見えますが、実際に保険料分のマイナスになっています。

一方、31000 円を下回ると、下回った分だけ保険金が大きくなり、利益が急激に増えていきます。

これが暴落保険を買った時の損益の特徴です。

つまり、このようにオプションを買っておくことで、株価の暴落をチャンスに変えることができるのです。

ちなみに、今回は、権利行使価格 31000 円のオプションを例に挙げましたが、オプション取引では、様々な権利行使価格のオプションを自由に選ぶことができます。

例えば、19,000 や 22,000 のように、画像に表示されていない価格帯のオプションも選択可能です。

中心値	プットオプション				
行使価格	現在値	前日比	IV	出来高	注文
31,625	-	-	46.73		新規
31,500	12	0	47.17	3	新規
31,375	11	-1	47.56	3	新規
31,250	-	-	49.06		新規
31,125	11	0	49.44	1	新規
31,000	10	0	49.76	5	新規
30,875	9	-1	50.02	1	新規
30,750	9	-1	50.95	2	新規
30,625	-	-	52.57		新規
30,500	8	-1	52.05	2	新規
30,375	-	-	53.75		新規

また現在値と書いてある列が、実際にオプションを売買する時の価格を表しており、表示されている金額×1000倍が取引価格になります。

権利行使価格が31,000円のオプションを購入する場合は、1枚あたり $10 \times 1000 = 10,000$ 円がかかるということです。

現在の日経平均（37,500）に近い権利行使価格のオプションほど価格が高いのは、取引期限日に保険金を受け取れる可能性が高いので、高い保険料を支払ってもいいと考える投資家が多いからです。

ですが、当然、相場が上昇した場合、支払った高い保険料がすべて無駄になりますので、ハイリスク・ハイリターンの投資であることを忘れてはいけません。

さて、ここまでが「オプション（暴落保険）の  
買い」についての解説です。最後にポイントを  
簡単にまとめておきましょう。

## POINT

- ・ 購入するオプションの権利行使価格はオプション一覧の中から自分で決める。
- ・ オプションの買いは保険料（オプションの購入代金）の支払いが発生する。保険料は、表示されている価格×1000円である。
- ・ 取引期限日に日経平均が権利行使価格（今回は31,000円）を下回らなければ、支払った保険料は無駄になる。
- ・ 取引期限日に日経平均が権利行使価格（今回は31,000円）を下回れば、保険金を受け取れる。31,000円をどれだけ下回ったかで受け取れる保険金の額が変わる。

続いて、「オプション（暴落保険）の売り」について解説します。

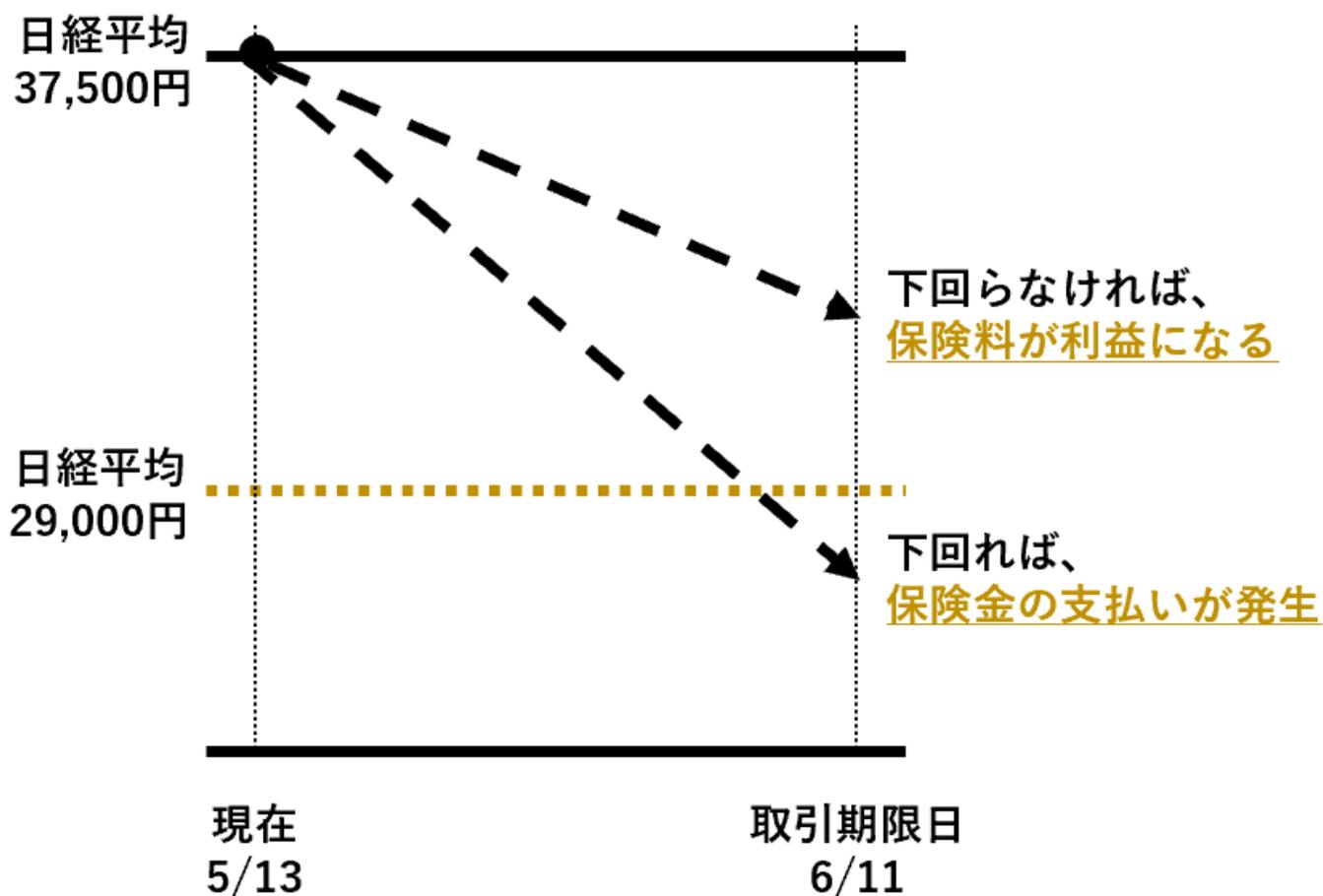
5月13日時点で、日経平均株価が37,500だったとしましょう。

あなたは「約1か月後の取引期限日までに29,000円を下回る大暴落はさすがにこないだろう」と考えました。

その場合、「約1か月後の取引期限日までに日経平均が29000円を下回らなければ、保険料を受け取れる」オプションを投資家に販売します。

※投資家側は1か月後に日経平均が29000円を下回れば、保険金を受け取れる保険を購入したということ。

その時の損益分岐点を簡単に図示すると次のようになります。横軸が取引期限日までの時間の流れを表し、縦軸が日経平均株価を表しています。



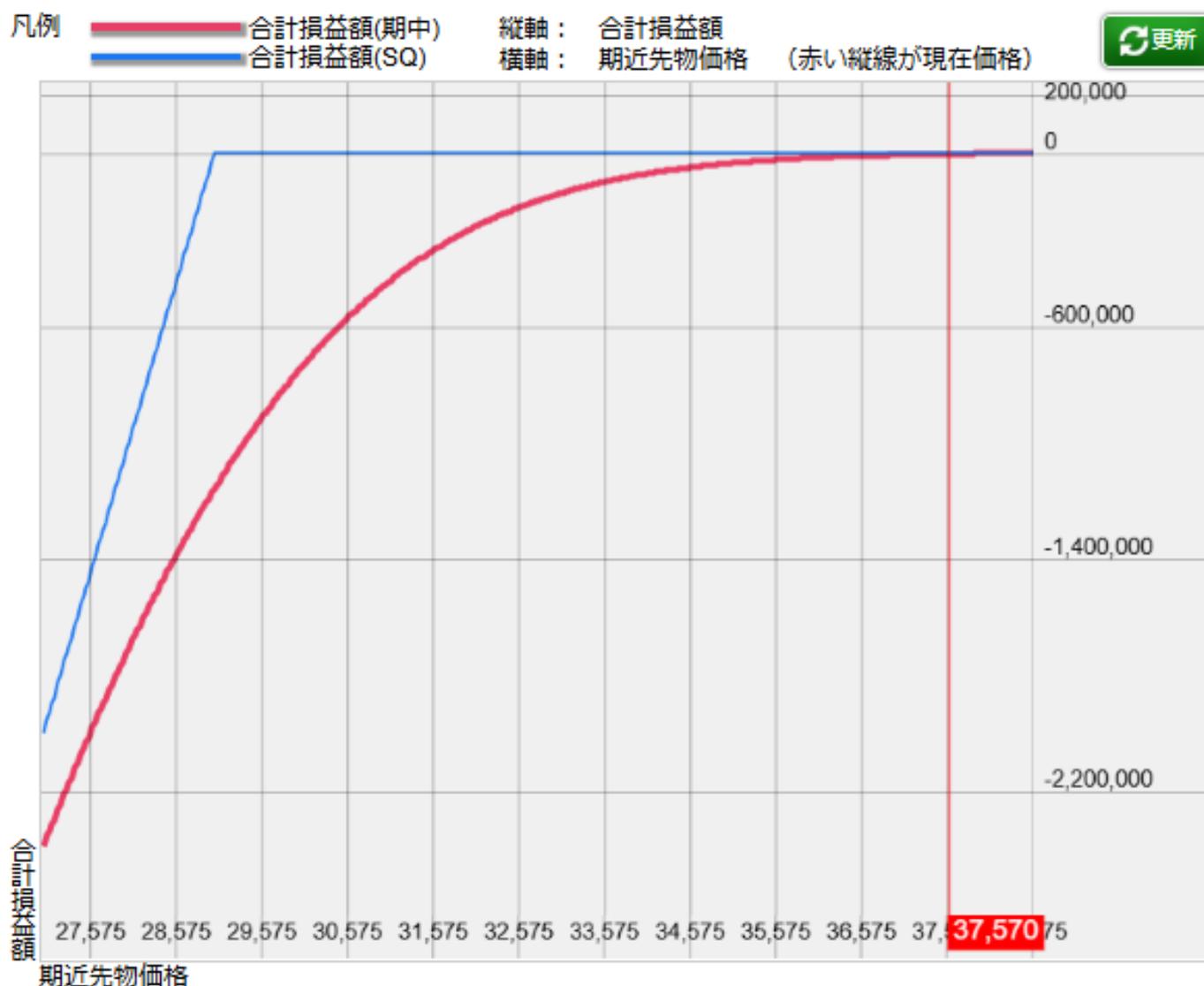
取引期限日に日経平均が 29000 円を下回らなければ、受け取った保険料がそのままあなたの利益になります。

ただし、もし大暴落が起きて、取引期限日に日経平均が 31,000 円を下回ってしまうと、あなたは保険会社の立場として、損失（保険金の支払い）が発生します。

ポイントは取引期限日に日経平均が 29000 円をどれだけ下回ったかで支払う保険金の額が変わるという点です。

少し見方を変えて、このオプションの損益図  
(青線) を見てみましょう。

これは横軸が取引期限日における日経平均株価  
で縦軸が損益を表しているとお考え下さい。  
(現在値は赤線の 37,570 です。)



取引期限日に日経平均が 29000 より上だった場合、損益は横一線になっており、受け取った保険料分がそのまま利益になることを意味しています。

※横線は 0 に見えますが、実際には受け取った保険料分のプラスになっています。

一方、29000 円を下回ると、下回った度合いに応じて、支払う保険金の額が急激に増えていきます。

オプションの売りは、コツコツ保険料分の利益を積み上げられますが、万が一、権利行使価格を下回るような大暴落が来ると、大損することになるため、実際に投資をする際には注意が必要です。

さて、ここまでがオプション（暴落保険）の売りについての解説になります。ポイントにまとめておきましょう。

## POINT

- ・ 売るオプションの権利行使価格はオプション一覧の中から自分で決める。
- ・ オプションの売りは保険料を受け取れる。受け取れる保険料は表示されている価格×1000円である。
- ・ 取引期限日に日経平均が権利行使価格（今回は29,000円）を下回らなければ、受け取った保険料分が利益になる。
- ・ 取引期限日に日経平均が権利行使価格（今回は29,000円）を下回れば、損失が出る。29,000円よりどれだけ下回ったかで支払う保険料の金額が変わる。

日経 225 オプションの取引について、少しイメージが湧いてきたでしょうか。

本書では、できる限りわかりやすくするため、あえて専門用語は使わずに、必要最小限の情報にまで絞って、解説してきました。

今日、お伝えした内容がオプションの土台となる考え方になります。

もし途中で分からなくなった場合は、ぜひこの章に戻り、読み直してみてください。

さて、ここままで、オプションの基礎的な仕組みと性質についての解説は一区切りとなります。

現時点では、「なぜこのオプションで、毎月安定した投資収入を生み出せるのか」についてはピンときていない方も多いかもかもしれません。

そこで、次章では、なぜこのオプションを使うと、毎月安定した投資収入を生み出せるのか、そのメカニズムを解説していきます。

## 公式 LINE のご紹介

実際に日経 225 オプションの勉強を始めると、言葉の意味が理解できなかったり、取引の仕方がわからなかったり、色々とつまづくポイントが出てきます。

公式 LINE では、そんなオプション初学者がつまづくポイントを突破するためのコツを定期的に情報発信しています。

また、毎月のトレード実績紹介や、オプションの勉強会、ゼロからオプションを身につけた投資家の声も多数紹介していますので、本書を読んで、日経 225 オプションに興味を持ったという方は、登録をしておいて損はないと思います。

無料で登録できますので、以下のリンクから登録を試してみてください。

<https://lin.ee/SDIMw2U>

毎月入ってくる投資収入を  
作れる理由とは

「毎月入ってくる投資収入」はすべての投資家が一度は憧れる理想形です。

しかし、現実には、それを実現できる手段は、ほとんどありません。

そんな中、この日経 225 オプションを活用すれば、“毎月安定した投資収入”を得る仕組みを作ることが可能になります。

前節でも少し触れましたが、日経 225 オプションには、満期日（SQ）という取引期限日があり、毎月第 2 金曜日がその SQ と定められています。

この SQ を迎えると、その時点で保有していたすべてのポジションが自動的に清算されます。

清算というのは、利益が出ていても損失が出ていてもその時点で自動決済されるという意味です。

オプションを買っていた場合は、自動で売却されますし、オプションを売っていたら、自動で買い戻されます。

つまり、オプション取引は、毎月第3週目にポジションを取り、翌月の第二金曜日に清算されるという明確なサイクルで動いています。

そのため、ひと月に1回の清算のタイミングで利益が出る取引が出来ていれば、毎月配当金を受け取るかのように、投資収入をコツコツ受け取る仕組みを構築できるのです。

とはいえ、こう思った方もいるかもしれませんが。

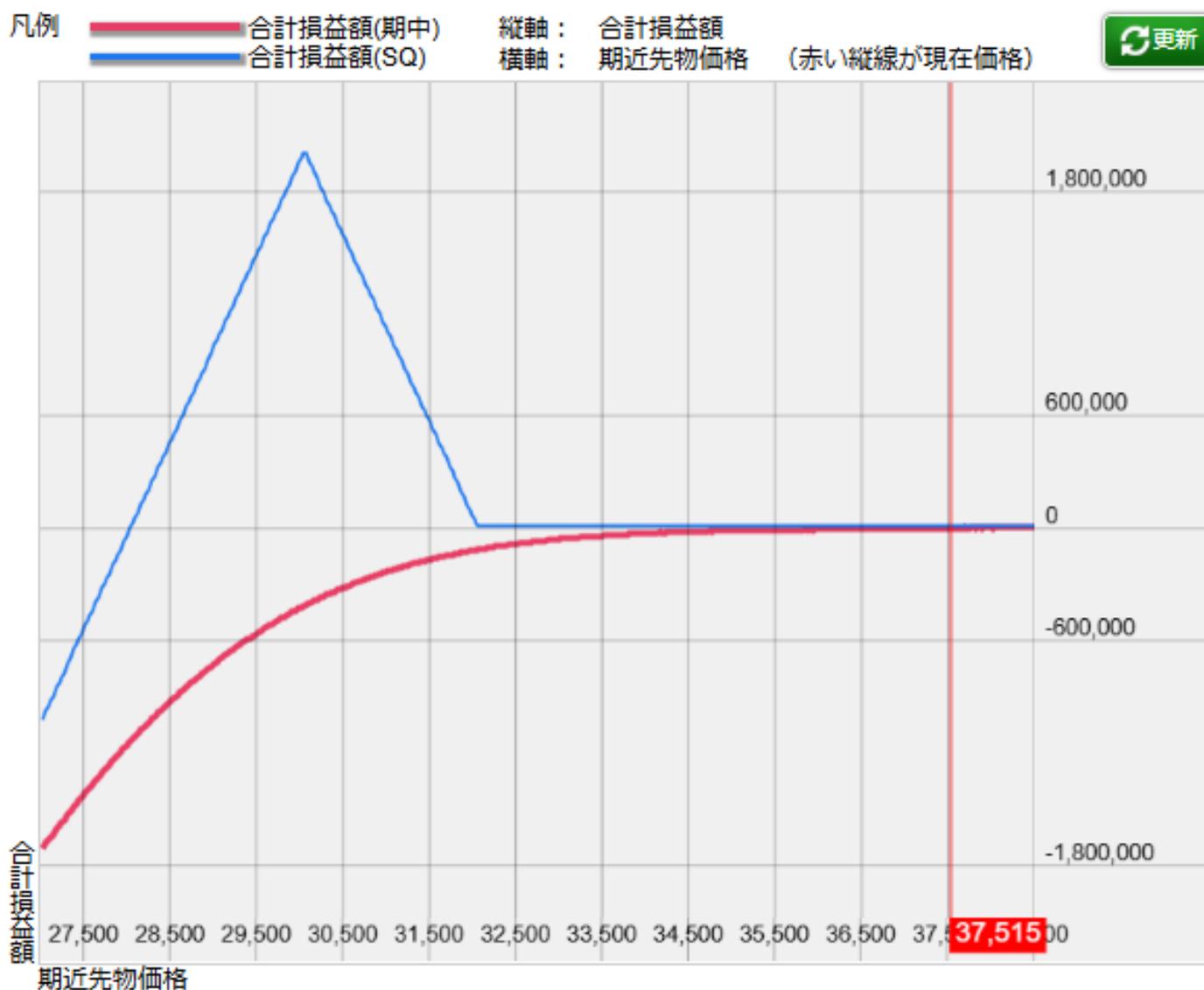
「理論上そうでも、” 毎月利益を出す” なんて、そんな簡単じゃないのでは？」と。

もちろん、投資である以上、毎月必ず利益が出るとは言えませんが、どの程度、利益が出る確率があるのか、オプションであれば、その確率を統計的に計算できるので、実際に計算してみましょう。

**毎月利益が出る確率は？**

例えば、次の図は、日経平均株価が 37,500 円の時、権利行使価格 32,000 円のオプションを 1 枚 93 円で買い、権利行使価格が 30,000 円のオプションを 2 枚 54 円で売った場合の損益図です。

投資資金は 150 万円を想定しています。（取引最終日の損益である青線を見てください）



この損益図では、取引最終日時点で日経平均が32,000円以下の場合、1枚買ったオプションから保険金を受け取ることができ、取引最終日時点で30,000円以下になると、2枚売ったオプションの保険金の支払いが発生します。

そして、利益が出る確率を計算する際に使うのが、オプションの一覧表です。

オプションにはギリクスというギリシャ文字が使われており、デルタ、ガンマ、ベガ、セータという4つのギリクスを使って、オプションの価格を計算できるようになっています。

今日は、細かい数式まで解説しませんが、なかでも、デルタという値は、今の時点で、この権利行使価格に到達する確率を統計的に算出しています。（証券会社のホームページでデルタの値は調べることができます。）

このデルタを見れば、取引最終日における到達確率を計算することができます。

限月： 25年06月 25年07月 25年08月 25年09月 価格 リスク指標

コールオプション					中心値	プットオプション				
追加	セータ	ベガ	ガンマ	デルタ	行使価格	デルタ	ガンマ	ベガ	セータ	追加
追加	-4.01	10.78	0.0000	0.95	32,250	-0.05	0.0000	14.02	-5.79	追加
追加	-4.03	10.62	0.0000	0.95	32,000	-0.05	0.0000	13.61	-5.69	追加
追加	-1.05	2.72	0.0000	0.99	30,000	-0.02	0.0000	7.90	-3.89	追加
追加	-2.36	4.11	0.0000	0.98	28,000	-0.01	0.0000	5.02	-3.02	追加

オプション一覧表から、

権利行使価格 32,000→5%

権利行使価格 30,000→2%

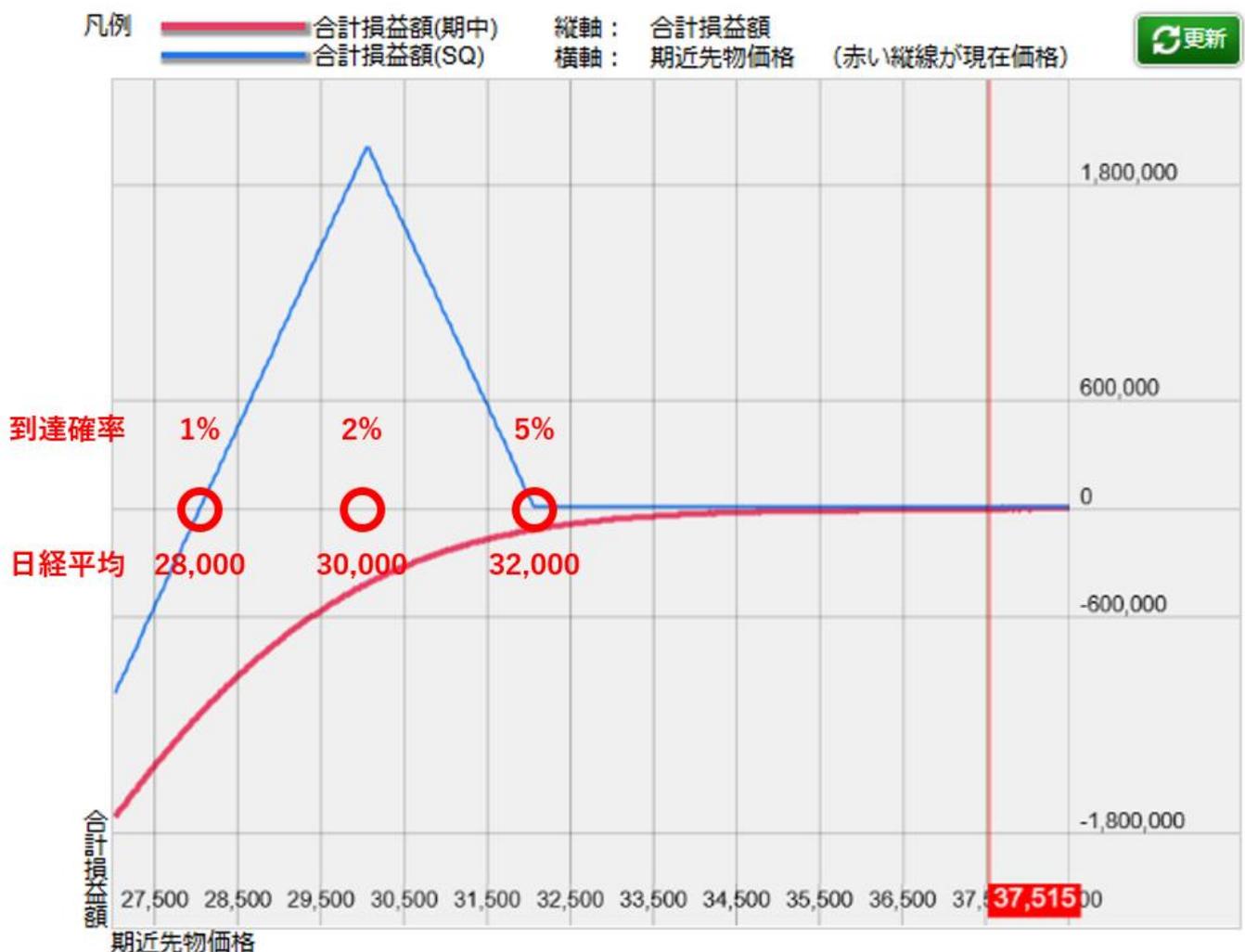
権利行使価格 28,000→1%

とわかりました。

これらの確率は単なる勘ではなく、統計的に算出された客観的な数値です。

もちろん、日経平均株価が動けば、日々デルタの値も変わりますが、取引のリスク判断において、非常に参考になる指標です。

このオプションのデルタの値を先ほどの損益図に追記したのが次の図になります。



図を見ると、このポジションの取り方で損失が出るのは、取引期限日に日経平均株価が 28000 円を下回った時ですので、その到達確率は 1%程度と計算ができます。

このように、オプション取引では、事前にシミュレーターを使って、「今月の利益は●%の確率で、●円くらいになりそうだ」と計算できます。

もう株のように「今月は上がるだろうか、下がるだろうか」と不安になる必要もありません。

いかがでしょうか？

「1 か月後に、28,000 円を下回らなければ、利益が出る」と聞いたら、かなり高確率で利益が狙えると感じませんか？

ただ、人によっては、こう思うかもしれません。

「でも、過去に例のないような大暴落が来て、1%の確率で 28000 円以下になったら大損するじゃないか！」

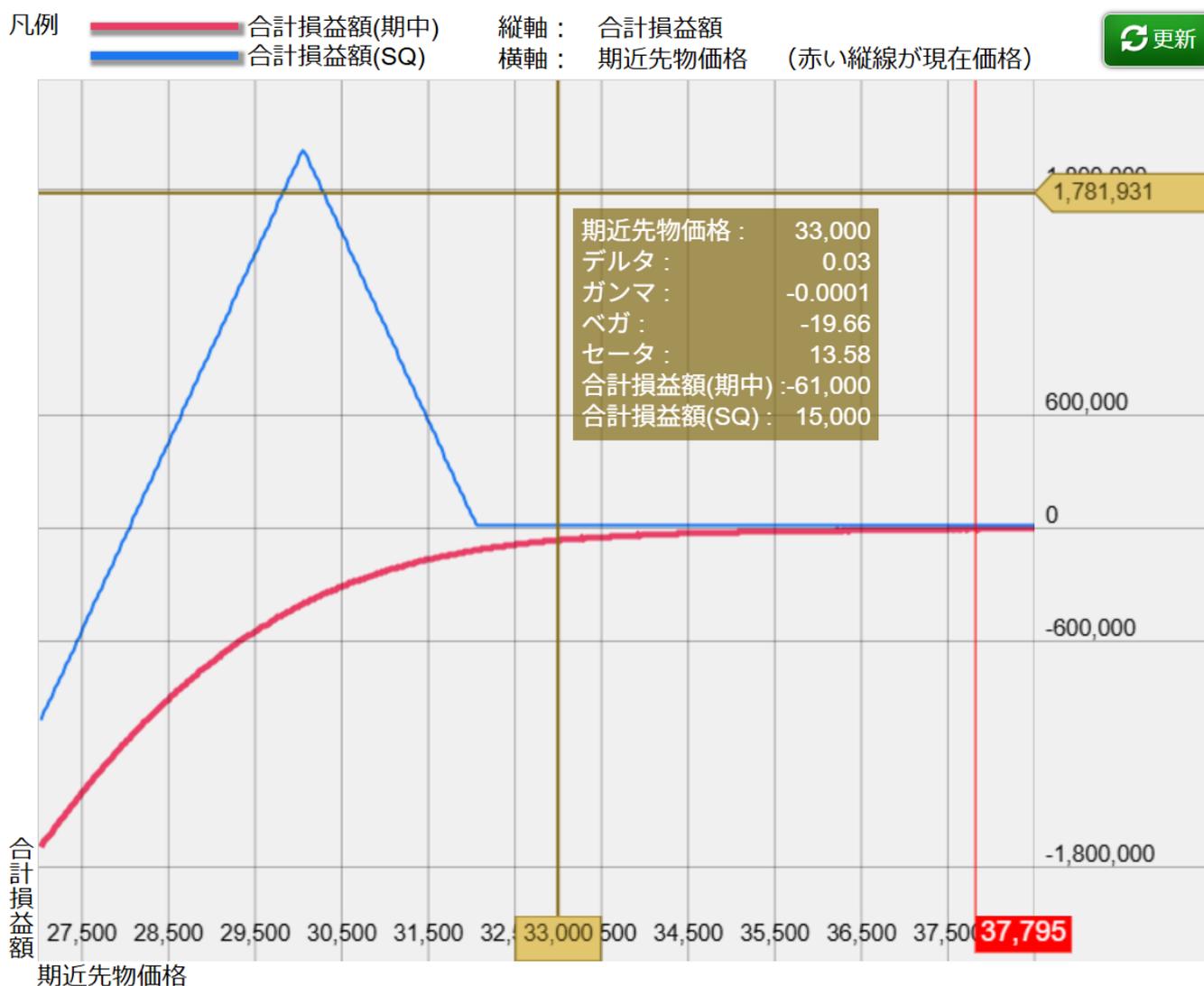
その懸念はごもっともです。

ですが、ご安心ください。

オプション取引は取引期限日までポジションを  
持ち続ける必要はありません。途中で清算して  
リスクを回避することもできるのです。

例えば、オプションのポジションを取ったその日に、令和のブラックマンデーに匹敵する大暴落が起きたと仮定しましょう。

当時は1日で日経平均が12.4%下落しましたので、同じように現在値から12.4%下落したときの損益をシミュレーションしました。

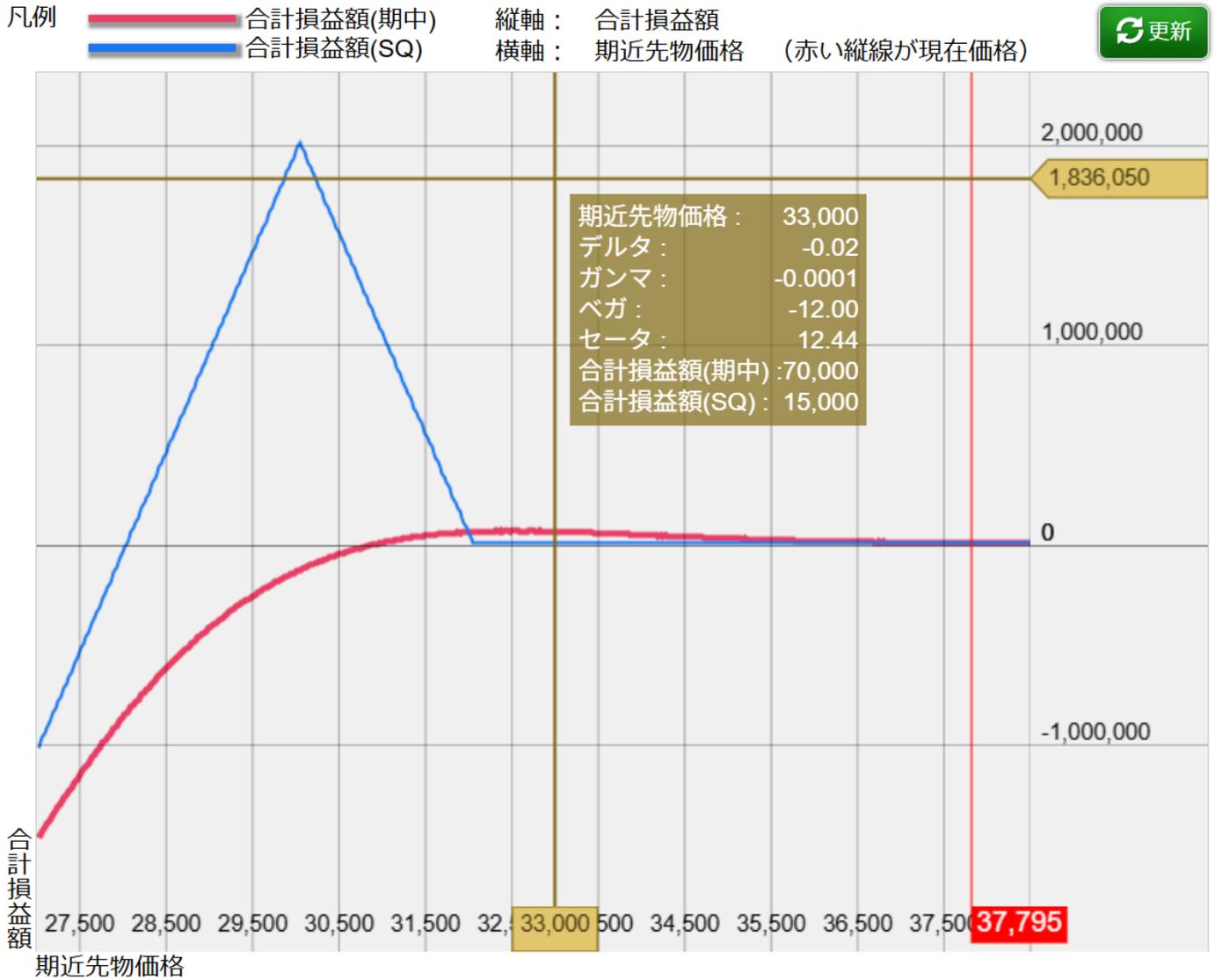


日経平均が37,800円として、12.4%の下落は約4800円ですので、日経平均が33,000円まで大暴落したときの損益を表示しています。

文字が小さくて見づらいですが、大暴落暴時の損益は▲61,000円です。（赤の曲線が現時点の損益を表しています。）

取引期限日を待たずに、このタイミングで清算すれば、損失は61,000円で抑えることができ、これだけ大きな大暴落が発生したときでも、投資金額150万円に対して、2%程度の損失で済むのです。

また、さきほどの事例はポジションを取ったその日に大暴落が起きたシミュレーションでしたが、ポジションを取ってから10日間かけて12.4%下落した場合の損益図は次のようになります。



日経平均が 33,000 円まで下落したとき、さきほどはマイナス 61,000 円でしたが、今回はプラス 70,000 円となっています。

取引期限を待たずに清算してしまえば、70000 円のプラスで利益が確定するので、マイナスになることさえありません。

このように日経平均が1か月後の取引期限日までに、28000円を下回る可能性のある大暴落が起きた時も、静観するのではなく、ある程度下がってきた段階で、さっと清算すれば、十分に回避できるイメージができたでしょうか。

オプションには本当に多種多様な戦略があり、欲張ることさえしなければ、毎月安定した利益を積み上げることも十分可能です。

ちなみに今回ご紹介したポジションの場合、93円でオプションを1枚買って、54円でオプションを2枚売っていますので、取引期限日までに相場が大きく動かなければ、 $(+54 \times 2 \text{枚} - 93 \times 1 \text{枚}) \times 1000 \text{円} = 15,000 \text{円}$ の利益となります。

投資資金に対して、だいたい月1%程度の利益です。つまりこれくらいのリスクを取れば、年12%

程度のリターンが期待できる計算になるのです。

**年4%と年12%で運用できた  
場合の必要資金の違い**

ここまでの解説で、毎月1%であれば、十分に可能性のある水準であることがわかりいただけただのではないのでしょうか。

では、年12%の運用ができると仮定した場合、月5万円の投資収入を得るには、どれくらいの資産が必要になるのか。

目標の月額投資収入から逆算して計算してみましよう。今回は、比較対象として、多くの投資家から人気が高い高配当株（利回り4%）を選びました。

収入（月額）	高配当株 ※利回り4%	オプション ※利回り12%
5万円	2,000万円	600万
10万円	4,000万円	1200万
20万円	8,000万円	2400万

比較すると、同じ収入（月額）を達成するために必要な元本が大幅に少なくて済むことがわかります。

月5万円の投資収入を目標にするのであれば、  
わずか600万円の資金があれば、実現可能であり、  
月10万円の投資収入でも1200万円の資金  
があれば、実現可能となります。

600万円であれば、仮に50才から毎月5万円ずつインデックスファンドを積み立てたとしても、7~8年間で十分に達成可能な金額です。

少し投資のスタートが遅れた人でも定年までに問題なく間に合います。

またもっと早い段階から投資をしている方であれば、より早いタイミングで、「月5万円」

「月 10 万円」といった投資収入を実現でき、  
FIRE も現実的な選択肢として見えてくるでしょ  
う。

いかがでしょうか。

年 12%で運用できる武器を 1 つ身につけること  
で、あなたの未来の選択肢が大きく広がるイメ  
ージが湧いてきたのではないのでしょうか？

**未来が見えている安心感**

投資に関する様々なテーマの中でも、最上位の人気を誇る高配当株ですが、なぜ、高配当株のように安定収入型の投資が人気を集めているのでしょうか？

もちろん毎月お金が入ってくるのは嬉しいことです。

ですが、実はそれ以上に大きな理由があります。

それは、「**今月、来月入ってくる投資収入が最初からある程度予測がつくから**」です。

私たち日本人は毎月決まった日に給料が入ってくるという生活に慣れているため、「いつ、いくらお金が入るか」が予めわかっていると、精神的にも安心感が得られます。

つまり、予測可能性こそが、安定収入型の投資が支持される最大の理由なのです。

この点、オプションも非常に似た特性を持っています。

前節で解説したとおり、オプションはポジションを取る段階で、「今月は何%の確率でいくらの利益が見込めそうか」をシミュレーションすることが可能です。

このように1か月後の損益を事前に予想できるため、オプションも安心感を持って投資ができるというわけです。

## 公式 LINE のご紹介

実際に日経 225 オプションの勉強を始めると、言葉の意味が理解できなかったり、取引の仕方がわからなかったり、色々とつまづくポイントが出てきます。

公式 LINE では、そんなオプション初学者がつまづくポイントを突破するためのコツを定期的に情報発信しています。

また、毎月のトレード実績紹介や、オプションの勉強会、ゼロからオプションを身につけた投資家の声も多数紹介していますので、本書を読んで、日経 225 オプションに興味を持ったという方は、登録をしておいて損はないと思います。

無料で登録できますので、以下のリンクから登録を試してみてください。

<https://lin.ee/SDIMw2U>

**もう相場の予測は  
必要ありません**

株の短期売買と聞くと、チャートパターンを分析して、今後上がりそうな銘柄を探したり、企業の決算情報や IR 資料を読み込んで投資先を選定したり、そんなイメージを持っている方も多いのではないのでしょうか。

しかし、時間をかけた割に成果が出ないことも多いため、本音で言えば、「こんなことに時間をかけたくない」と思っている投資家も多いと思います。

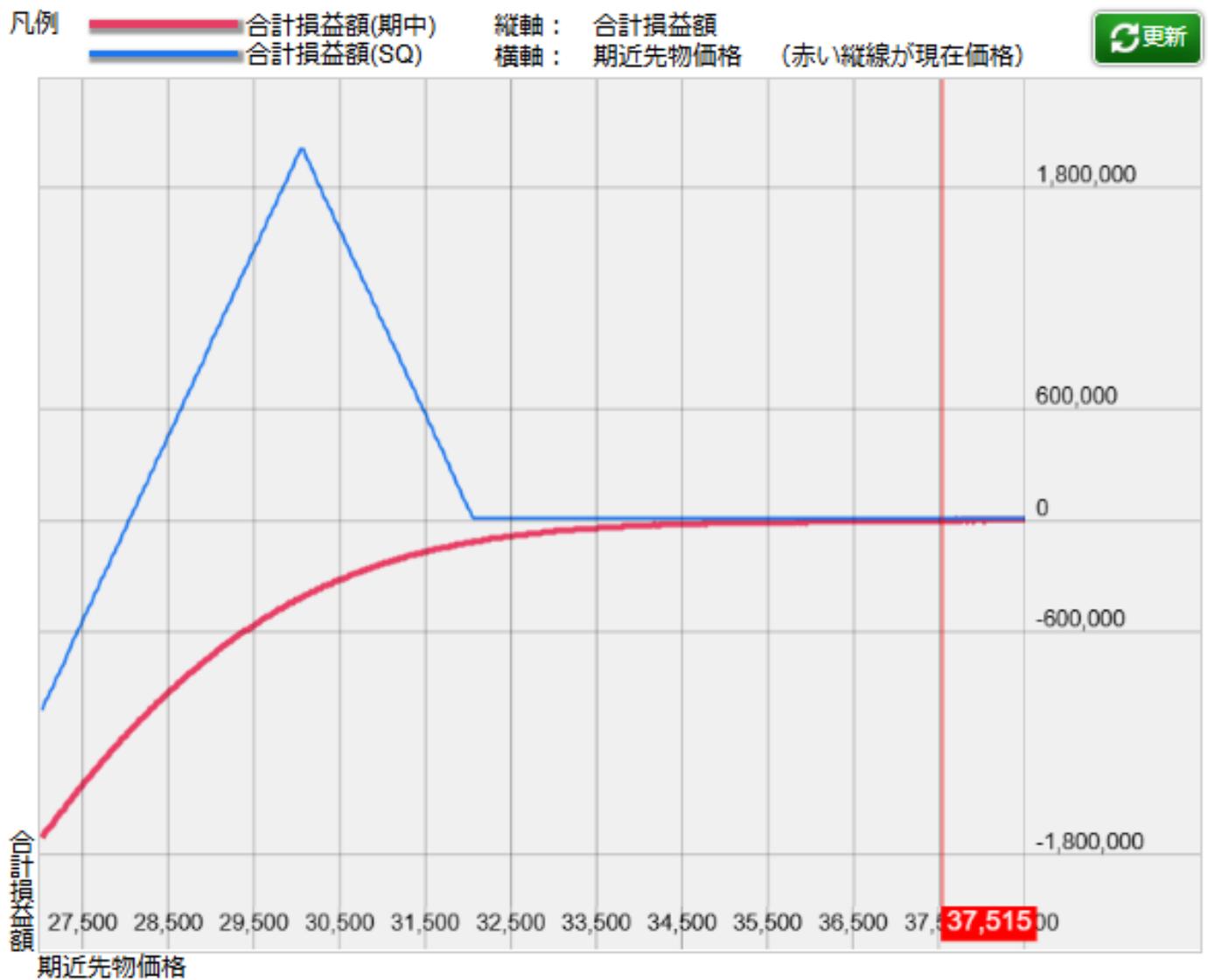
一方、このオプションという金融商品では、そもそも相場の予測をする必要がありません。

(厳密には数ある戦略の中で、私が使っている手法では予測が必要ないという意味です)

なぜなら、オプション取引では、一度ポジションを取ったあと、相場の状況に合わせて、ポジ

# ションを柔軟に変化させていくのが基本戦略だからです。

さきほどの損益図（青線）をもう一度見てみましょう。



さて、ここで質問です。

このポジションを取る時に、目先の株価が上がるか下がるかを考えることで、あなたの利益は変わるでしょうか？

答えは、「変わりません」。

なぜなら、このポジションでは、相場が多少上がろうが下がろうが、得られる利益は変わらないからです。（15,000円が確保できるという意味）

厳密に言えば、取引最終日に28000円～32000円くらいまで日経平均が暴落すると、得られる利益は大きくなりますが、そんな大暴落は誰にも予想できませんので、予想するだけ時間の無駄です。

ここで注目してほしいのは、相場予測が不要になることで得られる最大のメリット。

“時間”です。

相場を予測する場合、必ず何らかの形で予測のための情報収集をしています。

新聞、Youtube、SNS など、1日1~2時間かけて情報収集している人も多いのではないのでしょうか。

しかし、オプション取引では、うまく工夫をすれば、相場の予測を必要としないため、こうした情報収集の作業が一切不要になります。

そのため、日中忙しいサラリーマンや家事育児で忙しい専業主婦の方でも、スキマ時間を使って、無理なく取り組めるのです

実際にどのような作業が必要になるのか、オプションの取引を初めて数か月のとある専業主婦の方のライフサイクルをご紹介します。

**とある主婦の1か月間の  
オプション生活**

## ■プロフィール

47 歳/専業主婦/夫と小学 6 年・4 年の娘と 4 人暮らし/お受験サポートで毎日大忙し/オプション歴半年/投資資金 300 万円

## ■2025/06/13（月） SQ 明けの朝 8:45 以降

子供を送り出し、ひととおり家事を済ませてから、松井証券にログイン。

オプションの一覧画面を開き、利益が 3 万円くらい狙えるオプションの組み合わせを探す。

最終的に権利行使価格 30,000 円のオプションを 2 枚売り、権利行使価格 32,000 円のオプションを買う。

注文がちゃんと約定したことが確認できたので、ログアウト。作業時間はログインしてから約 15 分。

## ■2025/06/14（火）

今日は朝から夕方まで忙しく、相場を確認する時間がなかった。

夕食を済ませて、家族が TV を見ている間に、松井証券にログインし、日経平均の値動きをチェック。

昨日の終値から、ほとんど変化していなかったので、3分ほどでログアウト。

## ■2025/06/15～07/10

毎日空いた時間に相場をチェック。

大きな変化がない日は、ログイン→確認→即ログアウトのルーティン。

## ■2025/07/10（木）SQ 前日

この日は 15:45 以降取引ができなくなるので、朝 9 時頃に相場をチェック。大きな変動もなかったなので、ログアウト。

## ■2025/07/11（金）SQ 当日

朝 9 時頃に SQ 値が確定。利益が確定した。

大きな変動もなかったなので、事前のシミュレーションどおりに約 3 万円の利益が確定。

いかがでしょうか？

「え？こんなにやることないの？」と思った方もいるかもしれませんが、オプション取引は一

度ポジションを取ってしまえば、普段は本当にやることは本当に少ないのです。

オプションは「勉強の順番」を間違えると、まったく仕組みが理解できず、実際に取引を始める前に心が折れてしまうことも少なくありません。

ですが、正しい順序で学びさえすれば、数か月もあれば、この方と同じような取引は当たり前のようにできるようになります。

**相場に左右されない投資手段  
を持つておくことの重要性**

多くの人々が株や投資信託を中心に投資をしている現在、相場が暴落すると、新聞・SNS等のメディアが一斉に大騒ぎになります。

特に投資金額が大きくなってくると、10%の下落でも数百万円の含み損となり、精神的にかなりの苦痛を感じたことがある人もいないのでしょうか。

ただ、残念なことに、株や投資信託というのは、相場頼みの投資手法です。大暴落が起きても、できることと言えば、「もう十分下がったから、そろそろ上がって・・・お願い！」と神頼みするしか打つ手がないのが実情です。

そうなると、悪い方向にばかり考えてしまい、「もう限界・・・早くラクになりたい・・・」という気持ちから、一番売ってはいけない、相場の大底で持っていた株や投資信託を手放して

しまった。という経験に思い当たることがある人もいるかもしれません。

もちろん、株や投資信託も長期保有すれば、いずれ回復するというのは、過去の歴史から考えれば正しいです。

ですが、実際に目減りしていく資産を目の当たりにしながら、何年も精神的ストレスに耐え続けられる人はほとんどいません。

**結局、何が問題なのかと言え、相場が上がらないと利益が出ない投資しか手段を持っていないことです。**

もし、相場の上下に関係なく利益を出せる別の武器、たとえば、オプションを持っていたらどうでしょうか。

オプションには、相場が大きく下落したときにこそ利益が出せる戦略がたくさんあります。

株や投資信託が暴落で大きく含み損になったとしても、それ以上の利益をオプションで得られたらどうでしょうか？

他の投資で損失分をカバーできていれば、慌てて売却することもなく、冷静に相場と向き合うことができます。

人によっては、ここがチャンスと買い増ししようという気持ちさえ湧いてくるかもしれません。

オプションでなくても構いませんが、下落する相場でも利益を出せる投資手段を最低1つか2つは持っておくことは、あなたの資産形成にお

いて非常に重要なことだと覚えておいてください。

オプションを始めて  
変わったこと

最後にオプションという武器を実際に身につけたことで、私自身に起きた変化についてお話ししたいと思います。

一番大きかったのは、相場に振り回されることなく、自分で稼げるという「自信」と「安心感」を手に入れたことです。

これまでの私は、投資で本当に数多くの失敗を経験してきました。

分析に多くの時間を使っているにもかかわらず、高値掴みをして損を出したり、最初に決めた損切り位置を移動させてしまい、損失を膨らませてしまったり。

損切りするには金額が大きくなりすぎて、反転上昇をひたすら神頼みするしかなく、毎日寝むれない日々を過ごしたこともありました。

しかし、オプションを自分の武器にしてからは、それが大きく変わりました。

たとえ大暴落が来たとしても、今、私が実際に運用している手法であれば、むしろ利益が大きく狙えますし、相場がほとんど動かなくても、利益が狙えます。

そんな運用を、元々かけていた時間の10分の1程度の時間で、実現できるようになったのです。

また利回りの面でも、年10%以上で運用ができていたので、あえて、相場頼みの資産クラス（株や投資信託）の保有比率をこれ以上高めようと思いません。（補足ですが、私も株や投資信託に投資はしています。）

相場がどうなろうと自分の収益には大きく影響しないので、1日何時間もかけて、経済ニュースを読んだり、投資系 Youtuber の動画を見たり、投資系インフルエンサーの X をみたり、といったことも必要なくなりました。（趣味程度に時々見てはいますが。）

そして、日経 225 オプションという商品は、日経平均株価が存在する限り、決して消えることのない金融商品です。

一度、しっかりと学んで身につければ、老後までずっと使える武器になります。

ですので、今日、本書を読んで、オプションに少しでも興味を持っていただけたのなら、ぜひあなたも、この武器を手にしてみて下さい。

自分の未来は、自分でコントロールできる。そんな投資の世界が、あなたにもきっと見えてくるはずです。

さいごに



最後までお読みいただき、ありがとうございます。  
ました。

ここまで読み進めていただいたあなたは、きっと「毎月、安定した投資収入を得る」という可能性に、少しでも希望を感じていただけたのではないのでしょうか。

本書では、「日本で一番やさしい日経 225 オプションの入門書」を目指し、あえて情報をそぎ落とし、取引の“イメージ”をつかむことに焦点を当てました。

そのため、人によっては「もっと詳しく知りたい」「具体的な戦略を知りたい」と感じたかもしれません。

そんな方のために、本書の続編として、より実践的かつ体系的に学べるオプション初学者向け

書籍『最短最速ムダなく学ぶ。ゼロから始める日経 225 オプションの教科書』と、オプション取引を始めるだけの知識が身についているかを確認できる『知らなかったでは済まされない。日経 225 オプション実力診断テスト』をご用意しています。

興味をお持ちいただけの方は、ぜひそちらも手に取ってみてください。

オプションは、株やFXとは仕組みが根本的に異なるため、最初の学習ステップが最大の壁です。

その壁を正しい順番で乗り越えることができれば、日々の手間をほとんどかけずに、年 10%超の運用を目指すことも決して夢ではありません。

この一冊が、あなたにとって「オプションで安定収入を得る」第一歩となれば、これ以上の喜びはありません。

2025 年吉日 井上隆

ここまでお読みいただいた  
皆様にお願いとお知らせ



最後にここまで読んでいただいた皆様にお願いと告知があります。

## ■お願い

もし本書を読んで「少しでも参考になった」と感じていただけたなら、ぜひカスタマーレビューにてご意見・ご感想をお聞かせいただけないでしょうか？

最後のページをめくると、レビュー入力画面が表示されます。

Amazonでこの本をレビューしてください。①タップ



### 評価とレビュー

Amazonに評価が投稿されました。 [評価を削除](#)



この本を5つ星で評価しました。

### レビューを追加（任意）

レビューのヘッドライン（必須）

レビュー（30文字以上入力してください）

- よい点や悪い点
- この本をお勧めしたい読者
- 気に入った理由または気に入らなかった理由

Amazonに投稿（Kindleのお客様）

②タップ

いいえ、結構です

送信

感想はもちろん、参考になったこと、次はこんなことが知りたい、もっとこうするべきなど、内容は何でも構いません。

レビューは私にとって本当に大きなモチベーションになります。

感想を書くのは面倒くさいという方は、星の数だけ選んで評価していただいても構いません。

## ■公式 LINE のご紹介

2 つ目は、私が日経 225 オプションについて、情報発信している公式 LINE アカウントの紹介です。

実際にオプションを勉強し始めると、言葉の意味が理解できなかったり、取引の仕方がわからなかったり、色々つまづくポイントが出てきます。

そんなつまづくポイントを突破するためのコツを定期的に情報発信しています。

また、毎月のトレード実績紹介や、オプションの勉強会、ゼロからオプションを身につけた投資家の声も多数紹介していますので、本書を読

んで、日経 225 オプションに興味を持ったという方は、登録をしておいて損はないと思います。

無料で登録できますので、以下のリンクから登録をしてみてください。

<https://lin.ee/SDIMw2U>